

環境経営レポート

対象期間 2023年4月～2024年3月

2024年4月30日 発行



Road▲Artist
株式会社南九州みかど

【 目次 】

- 1 事業概要
 - (1) 事業所名及び代表者名
 - (2) 本社・資材置き場
 - (3) 環境管理責任者及び連絡先
 - (4) 事業活動
 - (5) 認証・登録範囲（全組織・全活動）
 - (6) 事業規模
 - (7) 推進組織図
- 2 環境経営方針・行動指針
- 3 環境経営目標
- 4 環境経営目標の実績
- 5 環境経営計画の取組結果とその評価
- 6 次年度の環境経営目標と環境経営計画
- 7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果及び違反訴訟の有無
- 8 代表者による全体評価と見直しの結果

1 事業概要

(1) 事業所名及び代表者名

株式会社南九州みかど 代表取締役 迎 敦雄

(2) 本社・資材置場

〒880-0855 宮崎県宮崎市田代町 168 番地

(3) 環境管理責任者及び連絡先

常務取締役 大田原 武志

TEL : 0985-25-5179 FAX : 0985-25-5180

E-mail : mikado-kawabata@mikado-kk.jp

URL : <http://www.mikado-kk.jp/>

(4) 事業活動

建設業（とび・土工工事業、舗装工事業、土木工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業）

(5) 認証・登録範囲（全組織・全活動）

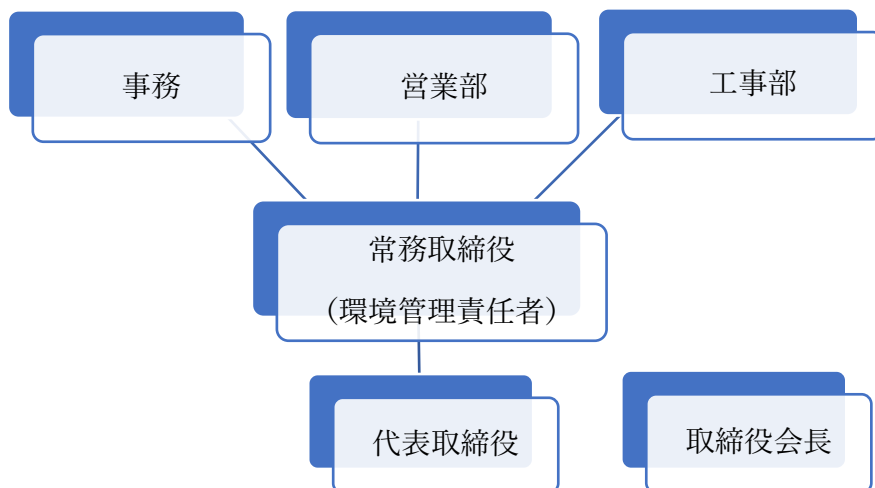
対象組織：全社（本社および工事現場・現場事務所）

対象活動：建設業（とび・土工工事業、舗装工事業、土木工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業）

(6) 事業規模

項目	2022 年度	2023 年度
工事件数	272 件	313 件
従業員数	41 人	46 人
事務所床面積	217.8 m ²	217.8 m ²

(7) 推進組織図



2 環境経営方針・行動指針

【環境経営方針】

株式会社南九州みかどは、持続可能な社会の実現に向けた取組が重要課題であることを認識し、事業活動および地域活動において、自主的・積極的に循環型社会の構築に尽力します。

✿行動指針✿

- 1 環境負荷の低減を図るため、環境経営システムを構築し、環境経営目標及び環境経営計画を定め、継続的な改善に努めます。
- 2 以下の項目を重点事項とし優先的に取り組みます。
 - ・電力や燃料の消費による二酸化炭素排出量を削減します。
 - ・事務所及び現場で排出される産業廃棄物を削減します。
 - ・節水に努め、水使用量を抑制します。
- 3 環境保全活動（地域活動）を継続して実施します。
- 4 環境に配慮した施工を推進します。
- 5 適用される環境法規を遵守し、従業員への周知と環境意識の向上に努めます。
- 6 新技術の活用や創意工夫等で効率的な施工に努めます。
- 7 地域とのコミュニケーションを図り、積極的に環境保全活動を行います。

この環境経営方針を全社員に周知するとともに、一般に公表いたします。

制定 2021 年 4 月 1 日
株式会社南九州みかど
代表取締役 迎 敦雄

3 環境経営目標

取組項目 (目標項目) (単位)		実施区	年 度 別 環 境 目 標			
			基準値 (2020年4月～ 2021年3月)	2021年度 (2021年4月～ 2022年3月)	2022年度 (2022年4月～ 2023年3月)	2023年度 (2023年4月～ 2024年3月)
二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ²)		全社	73,241	72,509	72,143	71,777
	①電力使用量の削減 (kWh)			1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
		事務所	13,982	13,842	13,772	13,702
	②ガソリン使用量の削減 (L)			1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
		全社	16,087	15,927	15,846	15,766
	③軽油使用量の削減 (L)			1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
		現場	12,042	11,921	11,861	11,801
廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減 (袋)			1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
		事務所	206.0	203.9	203	202
	②建設副産物の再資源化 率向上 (%)			1.0%増	1.5%増	2.0%増
		現場	26.0%	27.0%	27.5%	28.0%
水使用量の抑制 (m3)				1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
		事務所	155.0	153.5	152.7	151.9
有益な環境活動	①環境保全活動 (地域貢献活動の推進)	全社	—	1回／月以上の実施を維持する		
	②環境配慮型施工推進	全社	—	環境経営計画の順守		

- ・ 一般廃棄物は分別後の最終処分量の削減を目標とします。
- ・ 二酸化炭素排出量は下記の排出係数に基づき設定（九州電力）
(排出量 (kg-CO²) = 使用量 × 排出係数 (B))

	使用量単位	CO ² 排出係数
購入電力	kWh	0.347
ガソリン	L	2.32
軽油	L	2.58

4 環境経営目標の実績

取組項目		目標値	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量の削減		71,777	154,486	46.5%	×
	電気使用量 (KWh)	13,702	13,329	102.8%	○
	ガソリン使用量 (L)	15,766	33,364	47.3%	×
	軽油使用量 (L)	11,801	28,084	42.0%	×
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減 (袋)	202.0	230.0	87.8%	○
	建設副産物の再資源化向上	28.0%	20.2%	72.1%	△
水資源使用量 (年間水資源総使用量) (m ³)		151.9	153.0	99.3%	○
環境保全の取組推進 (ボランティア活動の実施)		12回	23回	183.3%	○
環境配慮型施工推進		環境経営計画 の順守	順守しました		○

- ・ LPG を含めた全社の二酸化炭素排出量は 171,474.8kg-CO² です。
- ・ 二酸化炭素排出量は下記の排出係数に基づき設定 (九州電力)
(排出量 (kg-CO²) = 使用量 × 排出係数)

	使用量単位	CO ² 排出係数
購入電力	kWh	0.347
ガソリン	L	2.32
軽油	L	2.58

評価基準

80%以上 = ○ 80%未満～70%以上 = △ 70%未満 = ×

5 環境経営計画の取組結果とその評価

取組項目	活動内容	評価	取組状況
電気使用量の削減	各執務室について、使用時以外の消灯を徹底する	△	全体的には目標を達成することができた。こまめな消灯や節電モードの活用により省エネに努めたが、冬季は暖房使用時間増や設定温度管理が徹底できなかったことにより、月目標を達成できない期間があった。
	空調の適温化（節電モード ON）を徹底する	△	
	電子レンジや電気ポットのコンセントは昼食時以外抜いておく	△	
	執務室ドアやリモコンに【節電】シールを貼る	○	
ガソリン使用量の削減	エコドライブを徹底する（アイドリングストップなど）	△	遠方の工事や大規模工事完工、工事の逼迫によりガソリン及び軽油消費量が増加した。忘れ物による折り返し運転があった。特に、遠方の工事件数の増加が実績に大きく影響し、目標達成に至らなかった。
	換気を徹底した上での現場への相乗りを推進する	△	
	事前準備を怠らず、忘れ物等による無駄な折返し運転をしない	△	
軽油使用量の削減	重機類は使用前点検を実施する	○	機器等は、使用時以外のエンジン使用停止や機器の使用前点検等適切な管理を心がけた。重機類を使用する工事現場が増加したため、目標達成に至らなかった。
	作業用機器類等は、使用時以外はこまめにエンジンをストップさせる	△	
	できるだけ重機のフルパワー操作を抑制する	△	
一般廃棄物の削減	資源の分別を徹底する	△	社員の増加による自然増加のほか、事務所整理時の廃棄物増加があったが、書類印刷時の裏紙の再利用や会議資料のペーパーレス化など削減対策を実施した結果、概ね目標を達成することができた。
	社内書類のペーパーレス化を推進する	△	
	裏紙使用と、割付・両面コピー等の機能を活用する	△	
	トナーや梱包材は業者引取で処分する	○	
建設副産物の再資源化率向上	材料発注時は在庫確認し残余材の発生を抑制する	△	残余材発生抑制や産業廃棄物の適切な処理を行ったが、再資源化処理量が少なく目標を達成できなかった。
	産業廃棄物は適正に処理する	○	
	安全パトロール時、産業廃棄物が適正に処理されているか点検する	○	
水資源使用量の削減	蛇口付近に【節水】シールを貼る	○	水資源使用時の節水の徹底を心がけたことにより、目標を達成することができた。今後も基本的なことを徹底する意識の向上を目指す。
	水道配管からの漏水を定期的に点検する（全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認する）	△	
グリーン購入の促進	備品購入時はグリーン商品を検討する	○	今後も、購入時はグリーン商品を扱っているものを積極的に購入する。
地域貢献活動	業界や団体の環境活動に参画する	○	地域清掃活動に加え、美化委員会の環境活動を積極的に行ったことにより、目標達成に至った。
	地域清掃活動を実施する	○	
自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善	環境配慮型の建設機械を使用する	○	常に創意工夫で工期短縮に努めている。
	創意工夫で工期短縮に努める	△	
	騒音、振動、粉塵、水濁等の抑制に努める	○	

6 次年度の環境経営目標と環境経営計画

取組項目	目標値	活動内容
二酸化炭素排出量の削減	109,262kg-CO ²	事務所の電力使用量、ガソリン使用量等を管理し、CO ² 削減に努める。
電気使用量の削減	12,744kWh	各執務室について、使用時以外の消灯を徹底する。
		空調の適温化（節電モード ON）を徹底する。
		電子レンジや電気ポットのコンセントは昼食時以外抜く。
		執務室ドアやリモコンに【節電】シールを貼る。
ガソリン使用量の削減	28,449L	エコドライブを徹底する（アイドリングストップなど）。
		換気を徹底した上での現場への相乗りを基本とする。
		事前準備を怠らず、忘れ物等による無駄な折返し運転をしない。
軽油使用量の削減	13,646L	重機類は始業前点検を実施する。
		作業用機器類等は、使用時以外はこまめにエンジンをストップする。
		できるだけ重機のフルパワー操作を抑制する。
一般廃棄物最終処分量量の削減	164 袋	資源の分別を徹底する。
		社内書類のペーパーレス化を推進する。
		裏紙使用と、割付・両面コピー等の機能を活用する。
		トナーや梱包材は業者引取で処分する。
建設副産物の再資源化率向上	27.0%	材料発注時は在庫確認し残余材の発生を抑制する。
		産業廃棄物は適正に処理する。
		安全パトロール時、産業廃棄物が適正に処理されているか点検する
水資源使用量の削減	123.8m ³	蛇口付近に【節水】シールを貼る。
		水道配管からの漏水を定期的に点検する
グリーン購入の促進		備品購入時はグリーン商品に代替できないか検討する。
地域貢献活動	1 回/月以上 実施	業界や団体の環境活動に参画する。
		地域清掃活動を実施する。
自らが施工する 土木建築物の環境性能の 向上及びサービスの改善	環境経営計画 の順守	環境配慮型の建設機械を使用する。
		創意工夫で工期短縮に努める。
		騒音、振動、粉塵、水濁等の抑制に努める。

7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果及び 評価の結果並びに違反訴訟の有無

当社の事業活動、製品およびサービスに適用される環境関連法規等は以下のとおりです。

なお、環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等ありませんでした。

現場での順守状況は、社内安全パトロールや現場巡視にて確認しています。

適用される法規等	適用される事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・ 廃棄物の削減 ・ 廃棄物の適正処理 ・ 産業廃棄物保管基準遵守 ・ 産業廃棄物処理委託基準の遵守 ・ 産業廃棄物管理票の管理 ・ 様式第3号による県知事および市長への報告	○
騒音規制法	・ 規制基準の遵守	○
振動規制法	・ 規制基準の遵守	○
建設リサイクル法	・ 再資源化等の実施義務の遵守 ・ 発注者への報告義務の遵守	○
フロン排出抑制法	・ 業務用エアコンの簡易点検	○

8 代表者による全体評価と見直しの結果

当社は、持続可能な社会の実現するための SDGs への取り組み等各界で環境活動が活発化する中、社内的な活動だけではなくより客観的な視点を得ながら社内に環境システムを構築するべくエコアクション 21 の取り組みを開始し、3 年が経過しました。

今年度は、電気使用量の削減及び一般廃棄物の削減、水資源使用量削減、環境保全の取組推進において目標を達成し一定の成果をあげることができました。一方、二酸化炭素の排出量の削減やガソリン使用量の削減、軽油使用量の削減、建設副産物の再資源化では目標を下回りました。

特に、ガソリン使用量は目標達成率が 40% 台であり、その要因としては目標設定時より遠方での工事案件が増加したことが大きいと思われます。これを受け、次年度以降の目標見直しを行うとともに、車両使用時は事前準備の徹底と相乗りの推奨、車両に積み込む工事機材の適切な取り扱い、アイドリングストップの更なる徹底を周知しました。

次年度も、引き続き全社員の環境意識の向上を目指し、環境関連法規やコンプライアンスを遵守しながらエコアクション 21 の取り組みを社内に定着させ、更なる環境負荷の低減に努めていきたいと思っております。